

ハンドベル研究会 活動報告

初等教育科 ハンドベル研究会顧問 藤田光子

【要旨】

初等教育科に新しくハンドベル研究会が発足し3年目を迎えた。平成29年4月発足のこの年、10名のメンバーでハンドベル研究会がスタートを切った。この3年でハンドベル研究会に在籍した人数は22名となった。楽器に触ることも、演奏することも初めての学生ばかりのスタートであったが、学生が自ら考え実践し、試行錯誤しながら美しい楽器の音色を求め奮闘してきた今日までの活動について報告する。

1. 3年間の活動

発足年、10名の学生が集まりハンドベル研究会は始まったが、誰一人ハンドベルに触ったことのある学生はいなかった。恐る恐る、真っ白い手袋をはめて、静かに腕を振り上げると部屋の中に残響のように澄んだベルの音が響き、みんなの顔が笑顔に包まれた。「綺麗」「教会の中にいるみたい」小さなハイベルから大きなローベルまでみまで1つずつ鳴らしてみた。

「いろいろな曲をすぐに演奏してみたい」という学生に、まずは楽器の持ち方とリングングストロークの練習100回と言って練習を開始した。演奏の時は真剣になり、全員で意見を出し合う。「違うよ。音はこうだ」「もっと強く」みな真剣そのもの。楽器演奏をしたことの無い男子学生も拍子を取りながら懸命についていく。「指揮とあってない」「もう一度」初めてのステージまでは暗くなるまで練習した日もあった。

しかし練習を終えるとみんな仲良くそれぞれの個性を存分に発揮しながら充実した2年間を過ごすことになる。実習や講義、試験、就職活動、採用試験などさまざまな試練を乗り越えながら研究会に確かな居場所があり、新たな人

間関係や先輩後輩の関係を築いていくことができた。楽器の特性から全員が揃わないと演奏の精度が高まらない。一人がいくら頑張っても、全員でどれだけ合わせ練習ができるかが楽曲の仕上がりに大きく影響する。ぶつかり合う原因の1つにもなるが、解決できる方法を学生が懸命に考えながら取り組んできた。そして研究会の場が音楽を知らなかった仲間達で新しい音楽を作り上げる楽しさを知る場所となった。

初年度は演奏をしてみることに多くの時間がかかり、なかなか公演に結びつける活動ができていなかった。初ステージは平成29年の「わくわくフェスティバル」であり、4月に発足して、ようやく秋にステージを経験することができた。3年間の公演記録については【表1】に記す。年を追うごとにステージでの演奏や人前での演奏も増え、子どもたちの前での演奏を経験できるようになった。研究会としての活動が軌道に乗ったと言える。しかし学生は2年間の在籍であるため、実際の演奏期間は短い。しかも音楽を作り上げることは非常に時間がかかる。選曲・編曲・アサイメント・調整・練習・リハーサル・本番といった手順を考えると、週に1回

【表1 これまでの公演】

年度	年月	行事	場所
平成29年度	平成29年11月	第8回初等教育科 わくわくフェスティバル	別府大学3号館ホール
	平成29年12月	第32回 初等教育科ミュージックフェスティバル	別府市公会堂
平成30年度	平成30年4月	初等教育科 研究会紹介	別府大学3号館ホール
	平成30年4月	別府大学オープンキャンパス	別府大学3号館ホール
	平成30年7月	アトリリウム遊園地	iichiko総合アトリウムプラザ
	平成30年10月	ボランティア演奏 みなはるの里	みなはるの里
	平成30年11月	第9回初等教育科 わくわくフェスティバル	別府大学3号館ホール
	平成30年12月	第33回 初等教育科 ミュージックフェスティバル	B-conプラザフィルハーモニアホール
令和元年度	令和元年	初等教育科 研究会紹介	別府大学3号館ホール
	令和元年7月	みどり幼稚園あずかり組訪問	みどり幼稚園ホール
	令和元年7月	大アトリリウム遊園地	iichiko総合アトリウムプラザ
	令和元年7月	別府大学附属幼稚園預かり組訪問	別府大学附属幼稚園ホール
	令和元年11月	第10回初等教育科 わくわくフェスティバル	別府大学第1体育館
	令和元年12月	第34回初等教育科 ミュージックフェスティバル	B-conプラザフィルハーモニアホール

1時間半の練習だけではかなり集中して取り組まないと完成までとどり着けない。それゆえに本番での達成感は学生にとって宝物となるのである。

2. 研究会リーダーの声

ここではこの3年間に研究会のリーダーとして研究会をまとめ、いろいろな演奏に向けての企画やコーディネートしてくれたリーダーの研究会で培った経験や、思いを紹介する。

(1) 平成29.30年 研究会リーダー

平成31年3月卒 古野穂乃花
ハンドベル研究会は私たちの入学年度からできた研究会で立ち上げから関わりました。この研究会でどんな活動や取り組みをするか、部長としてリーダー研修会に参加したり、仲間や先生と話し合いをしたり時間をかけて考えました。練習では仲間達と互いに教えあいながらパートごとに聴きあいながら演奏を上げました。本番で成功した時は言葉にならない達成感や感動がありました。仲間達と協力して作り上げる素晴らしさやリーダーとしての責務を知りとても充実した経験になりました。

(2) 平成29.30年 副リーダー

平成31年3月卒 前田 千暁
このハンドベル研究会の2年間の活動で、あきらめずに挑戦し続ければ素敵なものを作り上

げることができる学びました。私たち初代研究会のメンバーは全員がハンドベル未経験者でハンドベルの鳴らし方も知らなければ楽譜が読めない子もいました。先生の熱い指導の下音を聴きあい、互いに教えあいま意見をおつけあったりしながら着実に腕を伸ばしていきました。そして何度もみんなの前で演奏する機会を通して、ハンドベルは自分たちだけでなくみんなを笑顔にして感動させるステキなものと感じ、その演奏をともに作り上げてきたメンバーとの時間は尊く、そしていつまでも忘れることのない大切な記憶として大事にしています。

(3) 令和元年 リーダー

初等教育科2年 東 鈴
私がハンドベル研究会に入ったきっかけは先輩方の演奏を聴きとても興味を持ったからです。ハンドベルはみんなで音をあわせて演奏するため協調性を学ぶことができました。また、子どもたちや老人ホームの利用者の方の前で演奏することもあり演奏だけではなく保育者に必要な話し方や表情も身につけることができました。私は部長をしているためまとめることの大変さもありましたが研究会の雰囲気がとてもアットホームなためみんなで支え合っています。

(4) 令和元年 副リーダー

初等教育科2年 馬場里緒奈
今は二年生6名、一年生5名の計11名で演奏

をしています。ハンドベル研究会に入ったきっかけは、研究会紹介での先輩の演奏に興味を感じ、東鈴さんと一緒に入ることを決めました。ハンドベルは音が多くなればなるほど重なり合う音が増え、演奏に迫力が出てきます。学年別の演奏になると人数が少ないため、想像していた演奏が出来ないこともあります。藤田先生の力を借りながらみんなで工夫して一つの曲を練習しています。少ない時間ではあるけれど、みんなで協力して演奏をすることが楽しいです。

(5) 令和2年 リーダー

初等教育科1年 南さくら

こども園や幼稚園、オアシスイベントでの演奏は子どもたちが知っている曲をメインに演奏し、演奏だけでなく楽器紹介やペープサートなどを行い興味をもって貰えるようにと先輩方が工夫してくださいました。また、わくわくフェスティバルは1年生だけの初舞台となり6人と人数も減り不安なところはありませんでしたが、本番は大きなミスもなくとても良い演奏ができました。ミュージックフェスティバルでは先輩方と演奏する最後の機会に大きな舞台上で演奏するのは初めてだったのでとても緊張し、ミスをしてしまうこともありました。たくさんの拍手を貰うことができて良かったです。

(6) 令和2年 副リーダー

初等教育科1年 白地 希

ハンドベル研究会では、わくわくフェスティバル等の行事や幼稚園での発表を行いました。幼稚園での発表ではペープサートを使い、台詞を付けて演じることで子どもたちが飽きることなく楽しく聴くことができるような工夫をしました。わくわくフェスティバルやミュージックフェスティバルでは、曲の中での演奏の仕方に変化をつけるなど工夫し発表しました。ハンドベルの魅力は曲決めや導入の工夫、演奏の仕方によって聴く人の楽しみ方が変わるところです。これからも、多くの人を楽しめるよう

な演奏に努めたいと思います。

3. おわりに

間もなく新たな新入生を迎える時期がやってくる。現在1年生の6名はまた新たな曲に挑戦しながら、どのような人との出会い、曲との出会いがあるかを楽しみに研究会活動に取り組んでいる。

自ら学んで実践するという形がこのハンドベル研究会の活動でも見られるようになり、4年目に向けてさらなる学生の飛躍を期待している。



【平成30年 ボランティア演奏（みなはるの里）】



【令和元年 訪問演奏（みどり幼稚園）】



【令和元年 第10回わくわくフェスティバル】